

働き方改革の取組は、新しいステージへ！！

アクション・プラン（第2期）の目標を達成する手立て

令和3年3月に策定した「学校における働き方改革北海道アクション・プラン（第2期）」では、取組期間3年間において、「時間外在校等時間を1か月で45時間以内、1年間で360時間以内とする」という目標達成のため、“3つの視点”を重視した取組を推進することとしています。

■重視する“3つの視点”とは

働き方改革は、一人一人の意識の変革が大切ですが、個人の努力や工夫だけでは立ち行かないことが多いものです。個々の職員が勤務時間のデータ等から気付き、考えたアイデアを、積極的な対話を通じて組織の総意へと昇華し、更に周囲の理解と協力を得ながら、組織全体が一つになって改革に取り組んでいくことが重要です。

その改革プロセスの要所を捉え、“3つの視点”と表現しています。

1

個の”気付き”

現状分析を踏まえ、各教員が自らの働き方を認識し、各自が最適な取組を実践

例えば…出退勤管理システムのデータを基に、個々や組織の課題を分析



2

チームの”対話”

真に必要な教育活動を効果的に行うため、学校全体で対話し、業務改善を実践

例えば…改革推進のコアチームを設置し、ボトムアップで業務改善のアイデアを実行



3

地域との”協働”

働き方改革の趣旨と取組に対する、保護者や地域住民の理解と協力を醸成

例えば…教育委員会による地域住民向け広報活動
外部人材の活用や地域学校協働活動の促進



☆『北海道の学校における働き方改革手引Road第3章』では、働き方改革を組織全体の取組へと展開させる手法である「働き方改革を成功させる8段階のプロセス」を紹介しています。

新アクション・プラン/北海道の学校における働き方改革手引Road

⇒ <http://www.dokyo1.pref.hokkaido.lg.jp/hk/ksi/hatarakikatakaikaku.htm>

北海道教育厅教职员局教职员課